

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
2008年秋の大会 総会議事
(2008年9月5日 12時～13時 J会場)

議 事 次 第

1. 部会長挨拶 米原部会長
 2. 部会の体制について (資料1) 山澤委員
 3. 委員会等報告 各担当委員
 4. ICRP 調査研究連絡報告会について (資料2) (小池委員) 飯本委員
 5. 部会主催・共催シンポジウム等について (資料3) (小池委員) 飯本委員
 6. 2009年春を含む今後の部会企画について (資料4) 山西委員、永井委員
 7. 低線量影響に関する学会ポジションステートメント作成について 米原部会長
 8. その他
 9. 閉会挨拶
- 部会等運営委員会の状況を踏まえた部会活動について
○50周年記念号執筆について

以上

日本原子力学会 保健物理・環境科学部会
第 5 期(2008-2009)、学会委員等名簿

【役員】

部会長 : 米原英典 (放医研)
副部会長 : 占部逸正 (福山大)、 外川織彦 (原子力機構)
会計監査 : 宮川俊晴 (原燃)

【運営委員】

飯田孝夫 (名大)、飯本武志 (東大)、石森有 (原子力機構)、植頭康裕 (原子力機構)、
内田滋夫 (放医研)、占部逸正 (福山大)、木名瀬栄 (原子力機構)、栗原治 (放医研)、
小嵐淳 (原子力機構)、小池裕也 (東大)、小佐古敏荘 (東大)、杉浦紳之 (近大)、
高橋知之 (京大)、竹安正則 (原子力機構)、塚田祥文 (環境科研)、外川織彦 (原子力機構)、
床次眞司 (放医研)、永井晴康 (原子力機構)、橋本周 (原子力機構)、服部隆利 (電中研)、
二ッ川章二 (RI 協会)、本間俊充 (原子力機構)、三浦太一 (高エ研)、宮川俊晴 (日本原燃)、
宮崎振一郎 (関電)、百瀬琢磨 (原子力機構)、森泉純 (名大)、山澤弘実 (名大)、
山西弘城 (核融合研)、横山須美 (藤田保健衛生大)、米原英典 (放医研)

【学会委員】

代議員	飯田孝夫 (名大)	2008～2009 年度
	本間俊充 (原子力機構)	2008～2009 年度
部会等運営委員	飯本武志 (東大)	2007～2009 年度
学会誌編集委員	高橋知之 (京大)	2007～2009 年度
	三浦太一 (高エ研)	2007～2009 年度
	木名瀬栄 (原子力機構)	2008～2010 年度
	床次眞司 (放医研)	2008～2010 年度
学会プログラム委員	植頭康裕 (原子力機構)	2005～2008 年度
	永井晴康 (原子力機構)	2007～2009 年度
	横山須美 (藤田保健衛生大)	2008～2010 年度
日韓サマースクール運営連絡会担当	飯本武志 (東大)	2005～未定

【第 5 期部会内担当委員】

総務担当 : 山澤弘実、横山須美 (運営委員会及び総会運営、その他雑務)
会計担当 : 栗原治、森泉純 (会計)
渉外担当 : 小池裕也、塚田祥文 (学会事務局、他学協会、他部会等との連絡調整等)
企画担当 : 山西弘城、永井晴康 (部会企画の立案、運営、プログラム作成等)
広報担当 : 石森有、竹安正則 (HP、メーリングリスト管理、部会ニュース作成等)
組織担当 : 橋本周、二ッ川章二 (投稿論文、学会発表の勧誘、部会員の増強)

ICRP 調査研究連絡報告会について

第 14 回（平成 20 年度第 1 回）連絡委員会

平成 20 年 7 月 1 日（火） 10 時～12 時 放射線影響協会（大会議室）にて

飯本委員が委員（保健物理・環境科学部会枠）として出席

議題

（1）各専門委員会等における議論について

①第 2 専門委員会 C-2 タスク

→ 放射性核種の摂取に関する作業（INDOS）の紹介

宇宙における放射線防護線量評価 2008 年秋に刊行予定

②第 5 専門委員会

→ 2007 年勧告の中の環境防護

レファレンス動植物の概念整理

（2）その他

ICRP の開催の日程（予定）紹介

第 15 回（平成 20 年度第 2 回）連絡委員会

平成 20 年 8 月 21 日（木） 14 時～16 時 30 分 放射線影響協会（大会議室）にて

飯本委員が委員（保健物理・環境科学部会枠）として出席

議題

（1）今後予定されている ICRP 各専門委員会及び主委員会における、予想される論点及び議論の方向性について

① 第 1 専門委員会（H20. 10. 06～09 丹羽委員出席 京都開催）

② 第 2 専門委員会（H20. 08. 25～28 石樽委員出席 サンクト・ペテルブルグ開催）

③ 第 3 専門委員会（H20. 09. 18～20 米倉委員出席 パルマ開催）

④ 第 4 専門委員会（H20. 09. 08～12 甲斐委員出席 ダブリン開催）

⑤ 主委員会（H20. 10. 24～26 佐々木委員出席 ブエノスアイレス開催）

（2）その他

ICRP 新勧告関連文章で気になる点 等

以上

部会主催・共催シンポジウム等について

第 9 回「環境放射能」研究会

1. 2008年3月27日－28日
高エネルギー加速器研究機構
2. 日本放射化学会 α 放射体・環境放射能分科会の主催
主催：高エネルギー加速器研究機構・放射線科学センター
日本放射化学会 α 放射体・環境放射能分科会
共催：日本原子力学会保健物理・環境科学部会
日本放射線影響学会
日本放射線安全管理学会
3. 代表世話人：五十嵐康人（気象研）、三浦太一（高エネ研）
4. 参加者：約110名（昨年約130名）
5. 発表件数 合計34件（昨年49件）
依頼講演 : 1件
口頭発表 : 14件
ポスター発表：19件
6. 今回のトピックス
放射線の環境影響

第 10 回「環境放射能」研究会（予定）

1. 2009年3月
高エネルギー加速器研究機構
2. 主催：高エネルギー加速器研究機構・放射線科学センター
日本放射化学会 α 放射体・環境放射能分科会
共催：日本原子力学会保健物理・環境科学部会
日本放射線影響学会
日本放射線安全管理学会
3. 代表世話人：五十嵐康人（気象研）、三浦太一（高エネ研）

2009年春の部会企画について

09年春（at 東工大）の部会企画は、「環境科学」です。

09年秋（at 東北大）の部会企画は、「保健物理」です。

題目：「ヨウ素129の測定技術の現状と環境中移行研究への応用」

連携：「加速器・ビーム科学部会」や「バックエンド部会」との連携の可能性あり

概要：I-129は、使用済核燃料再処理施設から環境へ放出される放射性核種の中で、環境影響評価の上で重要な核種として注目されている。近年、加速器質量分析装置（AMS）の発達により、極少量の試料で短時間内に精度良く環境中I-129を測定することが可能となった。本企画では、AMSを含めたI-129測定技術の現状、環境モニタリングや環境中移行研究への応用、文科省のヨウ素129分析マニュアルの改訂、などについて議論する。

講演者については、学習院大学の村松教授（I-129分析及び研究の概説）、東大の松崎准教授（AMSによるI-129分析）、海洋生物環境研究所（海洋モニタリングへの応用）、原子力機構むつ（海洋研究への応用）、日本分析センター（マニュアル改訂）、などが候補者として挙げられます。

提案者：外川副部長

「地震、事故・トラブル、テロ等による放射能（線）放出時に対する緊急時対応」

連携：不明

概要：昨年度に発生した新潟県での地震時には、原子力発電所の緊急時対応がクローズアップされた。このセッションでは、地震、事故・トラブル、あるいはテロ等により、放射能（線）が放出される場合に対する緊急時対応の現状について議論したい。

提案者：竹安委員

「放射線のリスクコミュニケーション」

連携：社会・環境部会

概要：リスクコミュニケーションにおいて重要になる、一般公衆の放射線に関する知識構造について、議論したい。

提案者：木名瀬委員

「国際宇宙ステーションの進展と宇宙飛行士の被ばく」

連携：放射線工学部会

概要：日本人宇宙飛行士が、スペースシャトルに乗り、国際宇宙ステーションにおいて「きぼう」を組み立てた。（組み立てつつある。）これから、宇宙飛行士のステーション長期滞在も計画されている。このセッションでは、国際宇宙ステーションの今後の進展について紹介していただくとともに、宇宙飛行士の被ばくに着目して、線量測定や線量制限の考え方について、議論したい。

提案者：山西

以下は、08年3月の提案より

[モニタリング] (永井委員、高橋委員、飯田前部会長)

- 1) モニタリング指針の改定 (高橋委員)
- 2) 原子力施設周辺のモニタリングの現状 (飯田前部会長)
- 3) 降雨による異常線量上昇 (飯田前部会長)
- 4) 気象指針の改定 (永井委員)

少し先のテーマになると思いますが、発電用原子炉施設の安全解析に関する気象指針の改定の話があるので、これに関して何らかの形で貢献できないかと考えています。どのような形がふさわしいのかは、よくわかりません。

[防災・緊急時対応] (永井委員、塚田委員、木名瀬委員、高橋委員)

連携：社会・環境部会

- 1) 防災指針 (高橋委員)
- 2) 緊急時モニタリング指針の改定 (木名瀬委員)

一例として ヨウ素の取り込み20%を考慮した場合の線量係数

- 3) 緊急時における対応と訓練 (塚田委員)
- 4) 緊急時対応システム (永井委員)

緊急時環境影響予測システムの現状を概観し、実際に使う場合の問題点や求められるものを明らかにして、今後の改良や運用方法の提案などを議論する。

[環境中物質動態予測] (永井委員)

- 1) 環境中物質動態予測 (再処理を対象とした) (永井委員)

放射性物質の環境中動態を予測するための研究の現状を把握し、特に六ヶ所再処理施設の環境影響評価を実施する上で、どのような予測が求められ、どの程度の予測が可能かなど、現状の予測のレベルと課題を明らかにし、今後どのような研究を重点的に行い、どのような予測手法を確立するべきかを議論する。

(08春の企画の続編のような内容です)

[環境の防護、廃棄物処分] (塚田委員、木名瀬委員、米原部会長)

- 1) 環境の防護 (木名瀬委員)

一例として ネズミやカエルの線量評価

- 2) 環境防護 (廃棄物処分と関連させる) (米原部会長)
- 3) 廃棄物処分の安全基準 (バックエンドとの共同) (米原部会長)

原研機構の木村さん、加藤さんなら、モデル、廃棄物、バックエンド (特にモデル) に精通していると思います。(塚田委員)

- 4) 放射性廃棄物に係わる長半減期核種の環境移行 (塚田委員)